



亘 信二

WATARI Shinji

南海電気鉄道

社長兼COO

関空開港20周年

—インバウンドを飛躍的に伸ばす1年に



来年、開港20周年を迎える関西国際空港（関空）。2007年に2本めの滑走路が完成したことで、完全24時間空港という大きな強みを手にし、昨年は格安航空会社（LCC）の就航ラッシュに大いに沸きました。第3ターミナルの建設も計画され、国内外ともに、さらなる路線の充実が期待されます。長いようで短かった20年。開港当時、私は鉄道の電気部門におり、空港特急ラピート等が走行する空港連絡鉄道の建設に携わっていました。今度は関経連の関空担当委員長という立場でその節目に立ち会えることに、関空との縁を感じています。

そんな2014年、関西各地では大きなイベントが控えています。和歌山では、海外の方にも人気が高い高野山が世界遺産登録10周年、翌2015年には開創1200年という大きな区切りを迎えます。弊社でも、高野山行きの観光列車「天空」を増便したり、とりわけ多いフランス人観光客向けの案内を充実させるなど、さらなる誘客に向けて力を入れています。

そして、大阪では、あべのハルカスがグランドオープンします。日本一の高さ300メートルのビルの展望台には、きっと大勢の人が押し寄せることでしょう。今年、グランフロント大阪が開業した際にも「ミナミのお客さまが奪われてしまうのでは」といった心配の声が上がりましたが、現状を見ると、ミナミも変わらず多くの人でにぎわっています。ミナミはお店の数も種類も多いので、いろいろとまち歩きをしながら楽しんでいただいているようです。キタ、阿倍野、そしてミナミが、それぞれ特色を出すことで大阪全体としての魅力を向上させ、大阪への集客、リピーターを増やすことが重要であると考えています。

東日本大震災等で大きく落ち込んだ日本へのインバウンドですが、今年は1,000万人を突破する勢いで、将来的には年

間3,000万人にするという政府目標に向けてようやくエンジンがかかってきました。2014年は、関空の20周年を祝うとともに、その利用を促進し、インバウンドを飛躍的に伸ばす1年としてしっかり盛り立てていきたいと思っています。

これからの成長分野として、「観光」に「環境」「健康」を加えた「3K」が注目されていますが、インバウンドを考える際、今後伸ばしていきたい分野として医療ツーリズムがあります。外国の方が医療滞在ビザを申請する際、身元保証が必要となりますが、まだ数社しかない身元保証機関（登録旅行社）の一つに、弊社のグループ会社も名を連ねています。同社では、提携先の医療機関での高度な治療や検診と観光を組み合わせて、アジアの富裕層等の誘致に取り組んでおり、今後も、医療機関等の提携先を増やすなど、積極的に進めてまいります。

「アクセスが不便」といわれてきた関空ですが、弊社でも鉄道・バス双方で対応を進め、利便性を高めてきました。例えば、関西の鉄道各社と連携して、関空から関西の主要観光地への移動に便利な、1,000円程度の企画切符を販売しています。また、リムジンバスでは、LCC拠点空港かつ24時間空港にふさわしい早朝・深夜アクセスの確立へ向けて、アクセス時間帯を拡大しています。それぞれ、国内はもとより、海外からのお客さまにもぜひ活用していただきたいですね。

関西での産業振興や雇用創出を実現するためにも、観光誘客の促進は不可欠です。空の玄関口・関空を通じて、国内外からより多くの方をお迎えすることが、地域全体の一層の活性化につながると信じています。（談）